



出江支部長

日本建築家協会（JIA）近畿支部（出江支部長）は8日、構造計算書偽造問題について意見交換する支部会員緊急集会を開き、設計・監理と施工の癒着構造に問題の根本的な原因があり、これを解決するため、設計・監理と施工の本質的な分離を目指すことを申し合わせた。支部ではワーキンググループ（WG）を早急に設置し、国に分離を徹底する法制化を求めることを決めた。

設計・監理と施工の本質的分離必要

緊急集会は、大阪市中要。戦後、GHQが設計と中央の綿業会館で約60人。施工の分離を訴えたが、では事実上、設計料は無いの会員が集まり開かれ、復興住宅の緊急な需要が、設計料ゼロで国民のた。冒頭、出江支部長は、設計料ゼロで国民の「建築家でも建築士でも、安全と幸せを守れるの、高い倫理観や道徳が必前に、その主張を引込か。国民のために完全分めた。その後も設計界は、離が必要であり、緊急集設計・施工の分離に取り、会ではこの一点に絞って組んできたが、そのタイ、意見をいただきたい」とミンクを逃したことが現、呼び掛けた。在の問題につながって、会場からは「設計料のると思つ」と述べた。ダンピングが横行し、構

WG設置し国に法制化要望



造事務所にしわ寄せが来しているのは明らか。構造事務所がプライドを持って環境整備が必要」「構造事務所としては、どういう基準で元請事務所が構造事務所を選んでいるのか聞いてみたい」「構造計算書ばかりが問題になっていないか、強度が規定の4〜5割しかない物件は、建築確認図書の構造図や特記仕様書を見れば分かる」「現場で、監理者も、現場監督も、職人も、危険な軀体かどうかを判断できないとすれば、大きな問題だ」「構図書を引き受けることは入力できないようにする必要がある」「設計・監理と施工の分離については、JIA近畿の顧問弁護士、菅生浩三氏は「表面上だけ分離することはたやすいが、本質的に分離することが必要。設計・監理・施工と資格者が建築確認図書をチェックし、確認済みの押印を行っているが、持ち込まれる確認図書の件数が多く、チェックがパーフエクトに行われていない」と語った。WG設置を決めたJIA近畿の役員は12日、来阪する小倉善明JIA会長、仙田満次期会長と会談する予定だ。

設計・監理と施工の分離については、JIA近畿の顧問弁護士、菅生浩三氏は「表面上だけ分離することはたやすいが、本質的に分離することが必要。設計・監理・施工と資格者が建築確認図書をチェックし、確認済みの押印を行っているが、持ち込まれる確認図書の件数が多く、チェックがパーフエクトに行われていない」と語った。WG設置を決めたJIA近畿の役員は12日、来阪する小倉善明JIA会長、仙田満次期会長と会談する予定だ。